

獣医学教育改革の課題 4つのキーワード



- ① コア・カリキュラム
- ② 共通テキスト
- ③ 参加型実習（臨床・公衆衛生）
- ④ 共用試験

Background-1 (獣医学への批判・要望)

獣医学をめぐる社会情勢の変化

- グローバル化に乗り遅れた教育環境
- 公衆衛生・産業動物獣医師の不足
(獣医師の偏在)
- 獣医系大学受験生の減少傾向



Background-2 (教育手法への批判)

古い体質からの脱却

今までの教育: 科目と単位数が決められているだけ
(後は暗闇の世界)

- 私が教え
- 私が試験問題を作り
- 私が採点し
- 私が合否を決めるのだ!



客観性と透明性が求められている

Background-3 (教育改革の波)

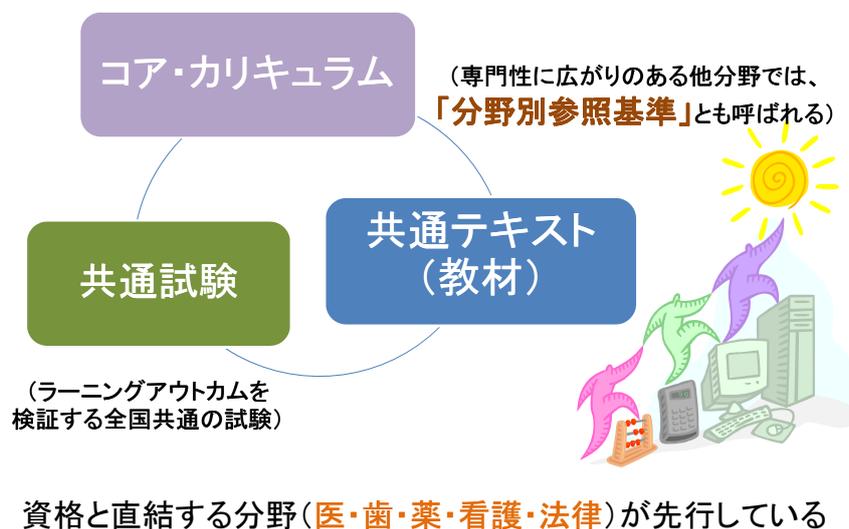
高等教育の 質保証

「獣医学だけではない、全分野での流れである」

2004年の国立大学法人化を契機に、事後チェック体制の構築が求められている。
(これまでは事前規制のみのシステムだった)



教育の質保証を担保する3つの具体的な手法



獣医学モデル・ コア・カリキュラム

「獣医学教育関係者が自主的
・主体的に定める教育項目」

平成23年3月に完成予定



委員会組織

- **総括班**（獣医学教育全般について内容を検討し、また本事業を統括する）

責任者：尾崎博（東京大学）

委員：田村豊（酪農学園大学）、佐藤れえ子（岩手大学）、吉川泰弘（東京大学）、西原真杉（東京大学）、石黒直隆（岐阜大学）、多川政弘（日本獣医生命科学大学）、佐藤晃一（山口大学）、片本宏（宮崎大学）

- **導入教育・基礎獣医学教育分野研究班**

（生理学、解剖学、薬理学などの教育内容を担当する）

責任者：西原真杉（東京大学）

- **病態獣医学分野研究班**

（微生物学、病理学などの教育内容を担当する）

責任者：片本宏（宮崎大学）

- **応用獣医学分野研究班**

（公衆衛生学、毒性学、野生動物学などの教育内容を担当する）

責任者：田村豊（酪農学園大学）

- **臨床獣医学分野研究班**

（内科学、外科学、臨床病理学などの小動物臨床分野を担当する）

責任者：佐藤れえ子（岩手大学）



「獣医学コアカリ」が目指すもの

- ① 獣医学コア・カリは「日本の獣医学教育とはこうあるべきもの」という観点から各論として定めるものであり、獣医学教育関係者が**自主的・主体的**に定めるものである。
- ② 獣医師国家試験は技術者（獣医師）としての資格を問うものであり、農水省が定めるもの。獣医学履修者の進路は多様であり、**範囲は獣医師国家試験ガイドラインよりは広く、程度は平易**となる。
 次のステップとして
- ③ コアカリキュラムに準拠した**共通テキスト**を作成し、学習の便宜をはかる。
- ④ 獣医学においては、まずは科目別のコアカリキュラムを構築し、順次これを再編して他の目的、**共用試験への利用**を可能とする。

4. 本調査研究委員会が想定する科目とは

文科省獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議「教育内容に関する小委員会委員」で検討された「必要とされる授業科目」(日本獣医師会で作成された標準的カリキュラムをもとに作成)を基準としています。

1 講義科目	1-3 病態獣医学	7 野生動物学	病学
1-1 導入教育	1 病理学	8 獣医疫学	13 消化器病学
1 獣医学概論	2 免疫学	1-5 臨床獣医学	14 呼吸器病・循環器病学
2 獣医法規	3 微生物学	1 内科学総論	15 血液病学
3 獣医倫理	4 動物感染症学	2 皮膚病学	16 臨床病理学
1-2 基礎獣医学	5 寄生虫・寄生虫病学	3 神経病学	17 臨床薬理学
1 解剖学	6 家禽疾病学	4 眼科学	18 外科学総論
2 組織学	7 魚病学	5 画像診断学	19 臨床腫瘍学
3 発生学	1-4 応用獣医学	6 放射線学	20 運動器病学
4 生理学	1 公衆衛生学総論	7 動物行動治療学	21 歯科・口腔外科学
5 生化学	2 食品衛生学	8 内分泌・代謝・中毒学	22 手術学
6 薬理学	3 毒性学	9 臨床繁殖学	23 麻酔学
7 動物育種学	4 動物衛生学	10 臨床栄養学	
8 動物行動学	5 環境衛生学	11 産業動物臨床学	
9 実験動物学	6 人獣共通感染症学	12 泌尿器病・生殖器	

2 実習科目

3 2-2 基礎獣医学	3 毒性学実習
1 解剖学実習	4 動物衛生学実習
2 組織学実習	5 環境衛生実習
3 生理学実習	2-5 臨床獣医学
4 生化学実習	1 画像診断学実習
5 薬理学実習	2 放射線学実習
6 実験動物学実習	3 繁殖学実習
2-3 病態獣医学	4 一般診断・治療学実習
1 病理学実習	5 臨床病理学実習
2 微生物学実習	6 手術学実習
3 寄生虫・寄生虫病学実習	7 麻酔学実習
2-4 応用獣医学	8 牧場実習
1 公衆衛生学実習	(インターンシップ含む)
2 食品衛生学実習	2-6 総合臨床実習(ローテーション)

赤字は参加型実習のコアカリに相当する

参加型実習前学習プログラムも必要となる

機関別コアカリ委員名簿

北海道大学	伊藤喜久治	奥田 優	児玉 洋	羽山伸一
稲波 修	吉川泰弘	佐藤晃一	小川和重	左向敏紀
稲葉 睦	久和 茂	前田 健	中村洋一	小山秀一
奥村正裕	九郎丸正道	谷 健二	長谷川貴史	植田富貴子
苅和宏明	今川和彦	中市統三	酪農学園大学	織間博光
石塚真由美	松本安喜	中市哲也	片桐成二	多川政弘
滝口満喜	森 祐司	渡会雅久	山下和人	尼崎 肇
坪田敏男	西原真杉	宮崎大学	大村松康和	鷺巢月美
田島誉士	西村亮平	三澤尚明	中出 哲也	日本大学
木村和弘	大野 耕一	山口良二	田口 清	丸山総一
落合謙爾	辻本元智	浅沼 武敏	田村 豊	佐藤雪太
帯広畜産大学	田中望月	池田正浩	内田 佳子	森友忠昭
宮原和郎	尾崎 博	片本 宏	廉澤 剛	巨 敏広
猪熊 壽	堀 正敏	芳賀 猛	小岩政照	岡山大学
武士 甲一	志水泰武	末吉益雄	北里大学	国枝哲夫
岩手大学	宇塚雄次	野中成晃	伊藤伸彦	動物衛生研究所
御領政信	杉山 誠	鹿児島大学	岡野昇三	筒井俊之
佐藤れえ子	北川 均	高瀬公三	高井伸二	社台ホース
山岸則夫	石黒直隆	三角 一浩	佐々木卓士	田上正明
重茂克彦	北川 均	上村亮三	星 史雄	フジタ動物病院
大石明広	鈴木正嗣	大和 修	渡辺清隆	藤田桂一
大澤健司	鳥取大学	中馬猛久	汾陽光盛	青葉どうぶつ病院
東京農工大学	伊藤壽啓	桃井康之	麻布大学	伊東輝夫
林谷秀樹	岡本宗裕	白石光也	印牧 信行	
伊藤 博	松嶋 彩	小島敏之	加藤行男	
藤川 浩	村瀬敏之	大阪府立大学	池田輝雄	
東京大学	太田利男	笹井和美	日獣医生命大学	
	山口大学	山手文至	池本卯典	(計114名)

コアカリで何が変わるのか？

1. 自分たちの理念で獣医学教育ができるようになる。
(国家試験ガイドラインも変わる)
2. 「教育組織は如何にあるべきか(予算と人員)」の積算根拠となる。
3. 分野別横断的評価の基準となる。

身近なこと:

1. 教科書が一新される。
2. 教員の教育への意識が高まる。(最強のFD)
3. なにより学生が勉強するようになる。(共用試験とセット)

4月1日から、一次案の意見聴取(パブリックコメント)が始まります！

すべての決定を今下したとしても、
体制が整うまでには**10年**はかかる。



現在ではなく、
「**10年後**の獣医学教育は如何にあるべきか、
あるいは 社会の考え方がどう変わっているか」
を基準にあらゆることを判断すべき！

負担増をどの様にシェアするか？
関係省庁の支援は得られるか？



実習を担当
する臨床教
員の負担は、
「他分野の
教員、獣医
師会、さら
には農水省、
文科省の支
援で支える」